

会報

庄原ロータリークラブ

SHOBARA ROTARY CLUB

2013~2014年度

- 例会/火曜日 12:30 庄原グランドホテル
/夜間例会 19:00 庄原グランドホテル
- 事務局/727-0013 庄原市西本町2-18-8 302号
TEL.0824-72-5500 FAX.0824-72-5500
E-mail:s-rotary@alto.ocn.ne.jp

●会長/石原 肇 ●幹事/福歳年行



道の駅たかの（高野町）

2014年1月14日例会記録

24号(919)

- 2014年1月21日のプログラム
- 次回のプログラム

会員卓話
職業奉仕委員会担当

- ビジター紹介

町里文孝会員（損害保険代理）

会長の時間

石原会長



皆さんこんにちは。先週の新年会では、親睦委員会さんに大変お世話になりました。和やかに楽しい時間をすごす事ができました。ありがとうございました。又、出席も今年度初の100パーセント出席ということで非常にうれしいことでした。

さて、1月度はロータリー理解推進月間です。会員にロータリーについて知識と理解を一層深めもらい、同時にロータリアン以外の一般市民にもロータリーのことをよく知ってもらうためのプログラムを実施する月間です。ロータリーの友には、「ロータリーの目的」6ページに記載されています。抜粋して読んでみます。

『ロータリーの目的』

ロータリーの目的は、意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励し、これを育むことにある。

- 第1 知り合いを広めることによって奉仕の機会とすること；
- 第2 職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事はすべて価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものにすること。
- 第3 ロータリアン一人一人が、個人として、また事業および社会生活において、日々、奉仕の理念を実践すること。
- 第4 奉仕の理念で結ばれた職業人が、世界ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進すること。

例会出席に心がけ、自分の生業に対して誠実に向き合い、社会生活の中で、奉仕の実践に努め、そしてそういった人々が会い寄っているロータリークラブを通して世界に奉仕すべきということでしょうか。

日々の繁忙の中でロータリー活動を行っておりますと、ついつい目先のことばかりを考え、ロータリーが「社会的・倫理的に責任あるリーダーの集まりである」ということを忘れてしまっているように思います。

新しい年の初めに、今一度本来のロータリアンとしてのあり方を考えるためにこの月間は定められているように思います。以上で会長の時間を終わりります。

ロータリーを実践し みんなに豊かな人生を

2013~2014年度RI会長

ロジD.バートン

幹事報告

1. 本日の配布物・・・①ロータリーの友1月号 ②会報No.22、23
2. 地区事務局より、次年度度R Iテーマ『ロータリーに輝きを』
3. 粟田小学校より、「宇宙に行ったアサガオの種」のお礼状

出席報告

会員数	35名	出席者	31名	MU	0名
欠席者	4名	出席率	88.57%		

スマイル報告

町里会員(三次中央RC)・・・明けましておめでとう!今年も宜しく!
伊藤慎二会員・・・新年家族例会では、皆さんに子供の相手をしていただき、ありがとうございました。娘たちは、次の家族例会を首を長くして待っています。

石田会員・・・ロータリーの例会でSAAがタスキをかけますが、1月3日の大学駅伝のタスキを思い出します。訳が違いますが、親戚の息子が今年も6区を元気でタスキを繋ぎ、安堵しました。

■親睦委員会

中尾委員長

1月7日(火)新年家族例会を全員出席でき、大変感謝しております。収支報告書が出来ましたので回覧いたします。ご確認下さい。

■プログラム

年男・年女卓話



■平田鈴香会員(昭和5年7月13日生まれ)

庄原RCに入会して12年を迎えた平田鈴香です。私が入会を決意した理由は、私の願いが実現できるからということでした。その願いとは、発展途上国の子供たちの救済奉仕活動です。貧民団の子供達の為に小さな学校を建てる、水資源の貧しい国に井戸り等、一人ではできないことが、ロータリーに入会すればできるのではないかと思い入会しました。しかし、入会して12年経ちますが未だに実現できていないことが残念です。

しかし、12年間の間に、SAAや米山委員長等をさせていただき、その中で、米山奨学生のカウンセラーも経験させていただきました。このことは私にとって大変貴重な経験でした。

自分の歩んできた道を振り返ってみると、沢山の出会いがあり、喜んだり、悲しんだり、落ち込んだ時もありました。しかし、心と心の通じ合える人との巡り合いもあり、何時か光の差し込む晴れる日もあることを信じて、残された人生を終えたいと思っている今日この頃です。



■八谷文策会員(昭和17年10月12日生まれ)

私は20代、30代の青春を全て拡大造林に精を出しました。しかしながら時代の返遷で、今では災害が出るのは杉、檜の一斉造林には自然災害の基であるとか猪がはびこったのも造林が基であるとか言われて大変な被害を及ぼした加害者の如く言われています。それ

を聞くたびに自分の青春は何だったのかと心が痛みます。しかし、幸いに息子が、必ず必要になると家に帰り仕事を続けてくれて一緒に暮らしてくれています。有難いことです。

さて、私にとってのロータリークラブとは何かと申しますと、週に一度のオアシスだと考えています。金銭的奉仕はできませんが、体で出来る限りの奉仕はやってきましたつもりです。今後もそのつもりで行動ていきます。これからもどうぞ宜しくお願ひいたします。